

至誠通天

衆議院議員

木村たけつか  
— 国政レポート —



[荒川区・墨田区版]

2011  
November.1  
vol. 34



発行:民主党東京都第14区総支部 〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋1-19-12 珙瑯会館2F 電話5819-8808(代表)

# TPP論議!

連日、党内でTPP(環太平洋経済連携協定)交渉に参加するか否かの喧々譁々の議論がなされております。以下に推進派、慎重派の主な主張を明記させていただきます。

## ◆ 推進派の主な主張 ◆

- 我が国は、FTA締結で遅れをとり(特に韓国に対して)、輸出産業は国際競争力上、著しく不利な状況にある。TPP参加表明/参加交渉により、国際競争力の確保を図るべきである。
- 国内の製造業は空洞化の瀬戸際にあり、TPP参加交渉は喫緊の課題である。
- TPPは、米国を含むアジア太平洋の成長を取り込む枠組みとなる可能性がある。
- TPP参加により、EUなどTPP以外の国々とのFTAも促進される。
- TPPで決められるルールが、アジア太平洋地域の実質的な貿易投資の基本ルールとなる可能性がある。
- ルール策定段階から積極的に交渉に参加することは、国益に有利にはたらく。
- アジア太平洋地域の地域経済を統合する枠組み作りに、日本がリーダーシップを発揮できる。
- 日本の製造業は、海外の稼ぎで国内生産・雇用を支えている状態。貿易・投資両面で環境整備をするEPAで、国内にとどまる企業、海外に進出する企業、双方がビジネス活動をしやすくすることが重要。
- 海外成長需要確保・国内立地競争力強化に向け、3大市場である米国・EU・中国(世界のGDPの約6割)を始め、主要国・地域との貿易・投資環境整備が急務。
- 韓国は、対EU・FTAが発効、対米FTAも発効間近。中台協定を意識し対中FTA交渉入りにも前向き。3大市場とのFTA全てで日本が劣後する危険性が現実的に。
- TPP交渉は、日本がアジア太平洋地域で直面する課題の解決に資するルールを、米国などと協力しながら作っていく場。TPPは将来的に、中国なども尊重する地域に広がるルールの相場を形成するものとなる可能性もある。TPPを通じて、米国と協働することの相互利益は大きい。
- 一方で、一定の分野におけるルール作りにおいて、米国に対して、アジア等の参加国とも協働しながら要請を行うことも可能な場。
- 最大の課題は、農業等との両立。しかし、TPPを別にしても、自由化率が低いままのEPA交渉は限界に直面。他方、TPPでは予め特定セクターを除外することは認められないが、最終的な自由化の程度は交渉次第。交渉の余地があるうちに参加すれば、特に、重要な農産品に対する交渉上の特別な配慮(段階的関税撤廃等)など、日本に有利な制度を主張可能。

裏面につづく

◆ **慎重派の主な主張** ◆ (PT での意見およびヒアリングに対する意見を中心として)

- 円高・ドル安の現状で、たとえTPP参加したとしても、円高により国際競争力を維持できず、国内の製造業の空洞化を阻止できない。
- 今優先して対応すべきはTPPではなく、根本的な円高対策(国債の日銀引き下げ)である。
- 自動車関係諸税のような国内障壁をいち早く取り除くとともに、内需拡大による景気対策により競争力を高める必要がある。
- 米韓FTAのように技術基準が米国主導となり、不平等条項により植民地化される可能性がある。
- 製造業界が求めている早期関税撤廃は、TPPに参加表明しても直ぐには困難であり(10年間以内に段階的に)、逆に、米国やEUとのEPA/FTA締結は1~2年中にしなければならない。
- 日本社会を激変させてきた小泉政権下で進められた規制緩和の延長上の米国との交渉である。
- 米国は、年次改革要望書により日本のあらゆる分野の市場開放を求め、残るは、医療、保険、金融、情報通信、政府調達・自治体調達などである。
- 国内の1次産業のみならず、医療(医薬品など)、国民皆保険制度、共済、郵政(簡易保険、郵便貯金)への影響は避けられない。

## 木村たけつかの主張

私は貿易立国として、自由貿易を推進すべきであると考えます。アジアを内包する包括的経済連携を推進することにより、アジアの需要を国内の成長・雇用につなげていくべきであります。最大の課題である農業分野との両立を図ること。すなわち、農商工連携(6次産業化)による守りから攻めの農政への転換を図り、セーフティーネットとしての戸別所得補償制度を拡充すること。そして、TPP協定交渉24作業部会の中で協議されている21分野に関しては、国益を毀損することのないよう外交交渉を行うべきであると考えます。

### TPP議論に関して皆様の声をお聴かせください

お名前

〒

ご住所

TEL  
FAX

TPP議論に関してご要望、ご意見をご自由にお書きください。

#### 木村たけつかプロフィール

- 昭和46年7月9日生まれ(現在40歳)B型
- 小・中学校は一貫して野球部に所属  
高校在学中は長身を活かしバレーボール部に所属
- 高卒後、自己鍛錬のため住込みで新聞・牛乳配達
- 平成10年 西川太郎元代議士(現荒川区長)秘書となる
- 平成12年 日本大学 経済学部 卒業
- 平成13年 西川太郎 元代議士 公設秘書となる
- 平成15年 墨田区議会議員選挙 初当選
- 平成19年 墨田区議会議員選挙 二期目当選
- 平成21年 第45回衆議院総選挙 初当選  
経済産業委員会委員  
沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員  
民主党企業団体対策副委員長  
国立戦災慰霊碑建立議連事務局長  
至誠通天
- 座右の銘

#### 墨田事務所

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋1-19-12-2F

#### 荒川事務所

〒116-0001 東京都荒川区町屋2-17-2-1F

#### 国会事務所

〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2  
衆議院第二議員会館708号室

(代表)TEL 5819-8808 FAX 5819-8809

